流通とＳＣ・私の視点

2021 年 2 月 22 日

視点(2408)　ショッピング＆ワーキングのデジタル・シンギュラリティ現象!!

（ＩＣＴ＆ネット市場編）

日本の国策としての未来戦略は「デジタルシフト（ＤＸ）」と「サステナブルシフト（ＳＸ）」です。ここでは**デジタルシフトによるシンギュラリティ現象**を説明します。

シンギュラリティとは、ものごとが過去から未来へ一定の方向に進化している最中に、未来のものが過去のものに対して圧倒的優位性を確立して、未来のものの進化が加速する**「特異点」**をここでは意味します。

通常、特定の目的を持った活動行動は、移動という物理的変化を伴い、これをモビリティ行動と言います。経済行動においては「ヒト（人流）」「モノ（物流）」「カネ（金流）」「情報（知流）」があり、これらの移動を通じて価値が創造されます。

しかし、デジタル化は物理的移動（フィジカル空間において移動）を伴わずに、対象者に価値創造を行います。これを**「移動を伴わない生活行動により起こる価値創造」**と言います。

典型的な事例として**「ワーキング」**（働き方と付随するビジネス行動）と**「ショッピング」**（買物の仕方と付随する買物行動）があります。本来、ワーキングもショッピングも物理的行動を伴う生活行動ですが、デジタル化により、物理的行動を伴わない生活行動となり、ワーキングとショッピングの分野もモビリティ革命が起こっています。

（１）移動を伴わないワーキング

ここでのワーキングとは、ワーカーの全要素的行動で、デジタル化により「通勤はテレワーク」と「会議はオンライン会議」と「営業（商談）はオンライン営業」となり、リモート化によるワーキングとなります。将来のワーキングのスタイルは次の通りと想定されます（ワーキングのパーソントリップ数を基準）。

タイプ	2030 年(近未来)	2050 年(未来)	備考欄
オンライン･ワーキング	30%	50%	サイバー上のワーキング行動
オフライン･ワーキング	70%	50%	従来のリアル上のワーキング行動
合　計	100%	100%	

すなわち、ワーキングのオンライン化は**2030 年に 30%減少、2045～2050 年には 50%**までパーソントリップ数が減少し、ワーキングのモビリティ（移動）面からのシンギュラリティ（変化が加速し常態化する特異点現象）は**「2030 年」**が想定されます。米国調査会社フォレスター・リサーチは、今後のワーキングは 30%がオンライン、60%は出社と在宅の組み合わせで、10%がリモートワークとしており、実質的にトリップ数で見ると 30%のワーキングトリップが減少するとしています。

（２）移動を伴わないショッピングモール

従来のショッピングは、自宅からリアル店舗まで移動が伴いますが、デジタル化はオーダー基軸でオンラインショッピング（ネット通販）は次の通りです。

タイプ	2030 年(近未来)	2050 年(未来)	備考欄
オンラインショッピング	30%	50%	ネット通販での買物
オフラインショッピング	70%	50%	リアル店舗での買物
合　計	100%	100%	

すなわち、ショッピング（モノ消費＝電子商取引）のオンライン化は 2030 年に 30%に、2045 年には 50%まで高まり、ショッピングのモビリティ面のシンギュラリティ（特異点）は**「2030 年」**が想定されます。

（３）結論

物理的空間（フィジカル空間）では、物理的移動は確実に必要ですが、サイバー空間（インターネット空間）では、物理的移動は起こりません。物理的移動は、移動の目的によって「楽しい移動」と「苦痛なる移動」があります。通勤や会議や商談のための移動、同じく日常的・定期的買物は苦痛なる移動です。一方、遊びや旅行や遊楽性ショッピングは楽しい移動となります。

今後は、移動というモビリティ革命が起こり、移動しなくても完成度高く目的を達成できる分野は、移動は減少あるいはなくなります。**移動に意味があり効用（満足）が得られる移動は増加します。**

(株)ダイナミックマーケティング社[+8]
代　表　六（む）　車（ぐるま）　秀　之

Copyright (C) Dynamic Marketing Co. Ltd. 2021 All rights reserved.